

布施の心

15

本多 克也
（略字も）文・徳永 耕一

【横浜】

日本ダッジファイバーズで働き始めた一九六五年から数年間、私は研究に没頭する日々で、世の中の動きに疎かだった。しかしこの頃、世の中は目まぐるしく動いていた。一九六五年米国がベトナム戦争に参戦、一九六六年日本の人口1億人突破、一九六九年アポロ月面着陸、一九七〇年大阪万博などなど。万博の太陽の塔は、日本の明るい未来を高らかに宣言しているように見えた。

世界を熱狂の渦に巻き込んだビートルズも、この頃来日した。当時、「レットイットビー」、「ハイジュード」などビートルズの曲を聞かない日はないくらいだつた。ビートルズ以外の洋楽もこの頃盛んに歌われて、今それらは「オールディーズ」と呼ばれている。

私も歌が好きで、巷で流れてくる歌謡曲によく耳を傾けた。歌える曲はわずかだつたが、歌はいつも私を励ましてくれた。

経済は「高度成長期」に入り、各分野が大きく成長した。エネルギー革命も起き、石炭から石油へのシフトが急速に進んだ。

私が入社した日本ダッジファイバーズも、親会社の中興工業は石炭関係の会社だった。斜陽化する石炭産業から脱却するため、多角化を模索して、アメリカのダッジ社と提携して日本ダッジファイバーズ社を作つたのだ。

一方政治的には、一九六八年頃から「安保反対」の学生運動が激しさを増して、多くの大学でデモやバリケード封鎖が頻発した。また、東大闘争や新宿騒乱（騒乱罪適用）や佐世保エンターブライズ阻止闘争など大規模な騒動が相次いだ。

余談だが、「日米安保条約」第一回目の改訂は一九六〇年、



2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。

本多産業株式会社
【本 社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

岸信介総理大臣によって締結され、十年後の第一回目の改訂は、弟の佐藤栄作総理大臣によってなされた。二人は、安倍晋三元総理大臣の祖父と大叔父にあたる。

さて、私は一九六五年十二月、日本ダッジファイバーズに入社したが、会社はできたばかりで、決まつた製品やプロジェクトではなく、何から手をつけて良いか分からない状態だつた。

周りを見ると、東大出や九大出の錆々たる顔ぶれだつたが、皆のんびりした様子で、私だけが「さて困ったなあ」と焦つていた。そうこうするうちに、長崎の松浦工場に「研究室長」として配属になつた。

赴任前、平野工場長から「研究室は君に任せせるから基礎から構築するように」との命令を受けて気合は入つたが、いざ赴任してみると、中央から遠く離れた長崎の松浦では情報が思うように入らず、夜行列車でたびたび上京しなければいけない状態だつた。

「これでは情報収集が遅れて、製品の開発はおぼつかない」と、強い危機感を持つようになつた。そこで、経営陣に関東への進出を進言したところ、すぐに採用された。

一九六六年十一月、神奈川県横浜市の戸塚工場の一角に「横浜研究所」として移転した。

これを境に、私の活動の舞台は横浜に移つた。

私は研究開発の主力を、ガラスの織布にテフロンを塗布した「フローグラス」に絞り込んだ。

当時、フローグラスはまだマイナーだった。

「なぜ、マイナーなフローグラスの製品化に力を入れたのか?」と疑問を持たれたが、私としては、岡野先輩から「これからはフローグラスの時代だ。その製品化に力を入れろ」との強いアドバイスをいただいたことや、「他社が目を向けていない物事や製品にこそ活路がある」との信念があつたからである。